

鹿部町

長井 竜太

1. 位置

北緯 42 度 02 分 17 秒，東経 140 度 48 分 57 秒．道南の渡島半島にあり，太平洋噴火湾に面している．東西 16.5 km，南北 19 km，面積 110.57 km²，函館からは車で 1 時間の場所で，国道 278 号線が町内を縦断しており，沿線に市街地が形成されている．海岸線は 13 km で大小 3 つの漁港を持つ．

大沼国定公園から車で 20 分，函館空港から 60 分の距離で，札幌からは 4 時間半となっている．公共交通機関の便は，お世辞にも良いとはいえないのが現状で町も幹線道路の整備に重点を置いている．

図 1 鹿部町の位置



出典：鹿部町役場 HP

2. 鹿部町の概要

2.1 地名の由来

地名の由来には諸説あり，アイヌ語で「シケルペ」が転訛して「鹿部」となったという明治期のジョン・バチラー説，ちなみに「シケルペ」とは「黄膚の木がある所」という意味で，黄膚は現在でも植物薬草として使われている．昔アイヌの人々には，イナウ(神を祀る木幣)・薬用・染料などに使用しており神聖で貴重な木とされていた．他に，文政期の上原熊次郎説は，シカウンベという

図 2 アホウドリ



出典：
環境省自然環境局野生生物課
HP

図 3 イナウ



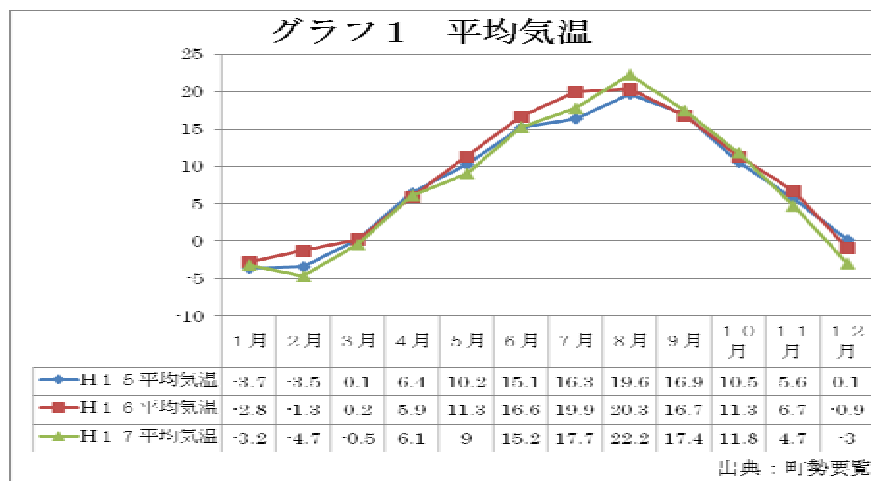
出典：アイヌ民族博物館 HP

アイヌ語が，負うところと訳すことが出来，シカウンとは物を負うことである，これに昭和になると山田秀三が説明をくわえ，鹿部の海岸で荷を背負って内陸に入ったところなのでこの名がついたとしている．さらに，三省堂地名大辞典ではまた異なっており，この地方に飛来する海鳥シ

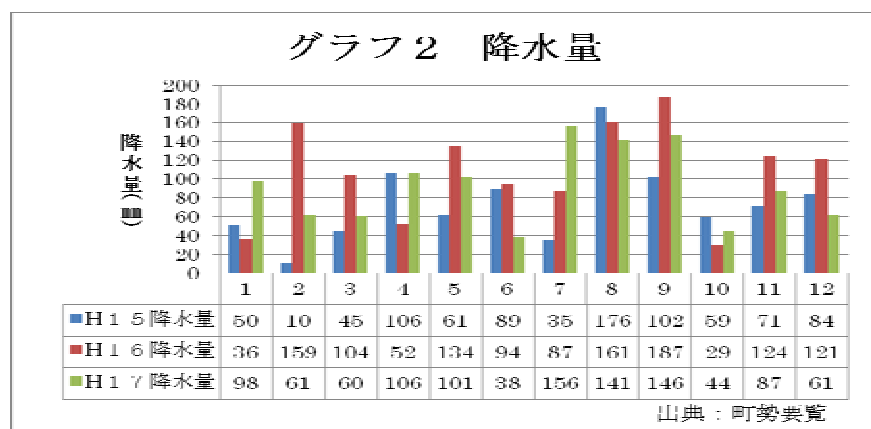
カベ(和語でアホウドリ)が由来としているとなっていた。

2.2 気候

気候は、1 年を通じて温暖で、夏の平均気温は温暖で盛夏の頃でも 30 を超えることは稀で、厳寒期でも - 14 前後までしか冷え込まない



降水量は、他の噴火湾沿岸地域と同様にやや少ない

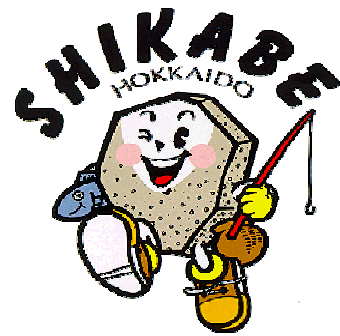


2.3 歴史

鹿部が開かれていった歴史の始まりは、元和元年(1615 年)陸奥の国南部下北から^{しめ}司馬宇兵衛が昆布採取のために移住したと伝えられており、これが開村の始めである。以来、豊かな漁場、比較的温暖で恵まれた気候のこの地に、安住の地を求め漁業を営む来住者が逐次増加し、明治 12 年(1879 年)には戸長役場が設置され、ここから自治体としての歴史が始まった。その後、昭和 4 年 6 月 17 日の駒ヶ岳の大噴火によって甚大なる被害を受け、村民を移住させ廃村という策も道庁では出されたが、鹿部村民たちは噴火が止んだその日から降灰によって埋没した我が家を軽石から掘り出し、生活が出来るように、また差し迫った昆布採りが出来るように毎日汗を流し村中が自立復興に精力的に活動した。そして奇跡的

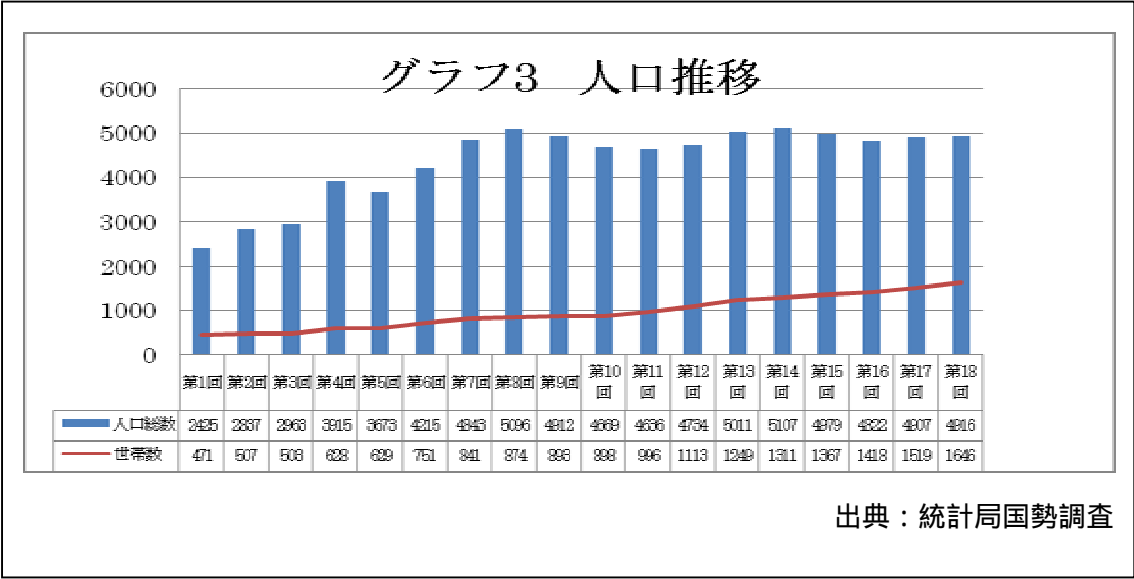
な復興を遂げ、漁業を基幹産業として発展を遂げ昭和 58 年 12 月には村民の等しく望んでいた町制が施行され、北海道で 156 番目の町となった。そんな歴史を踏まえ駒ヶ岳より噴出した軽石をモチーフにしたキャラクターが作られている。

図 4 カールスくん



出典：鹿部町応援 HP

3. 人口

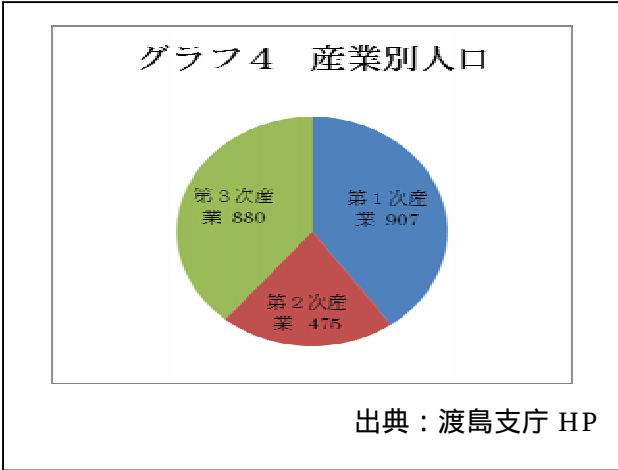


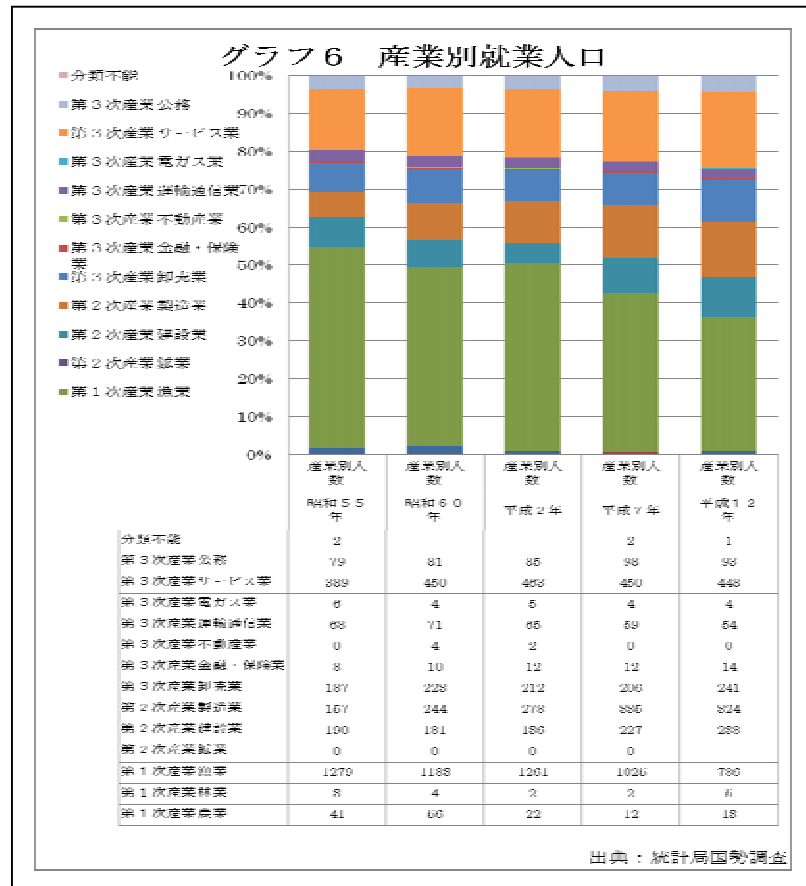
人口は、昭和 60 年の国勢調査の 5,107 人をピークに減少したが、平成 6 年から僅かながら増加に転じ、平成 17 年国勢調査で 4,916 人になっております。この 10 年ほど前から鹿部町の雄大な自然環境に感動し、この地に定住する人が増え、近隣町村の過疎化が進む状況の中ここ数年微増傾向にある。

4. 産業と土地利用

4.1 産業別人口

第 1 次産業の漁業従事者が圧倒的に多いが、道内の他の町と同様に年々減少傾向にあり、町内にある道立漁業研修所は後継者の育成に益々力を入れている。

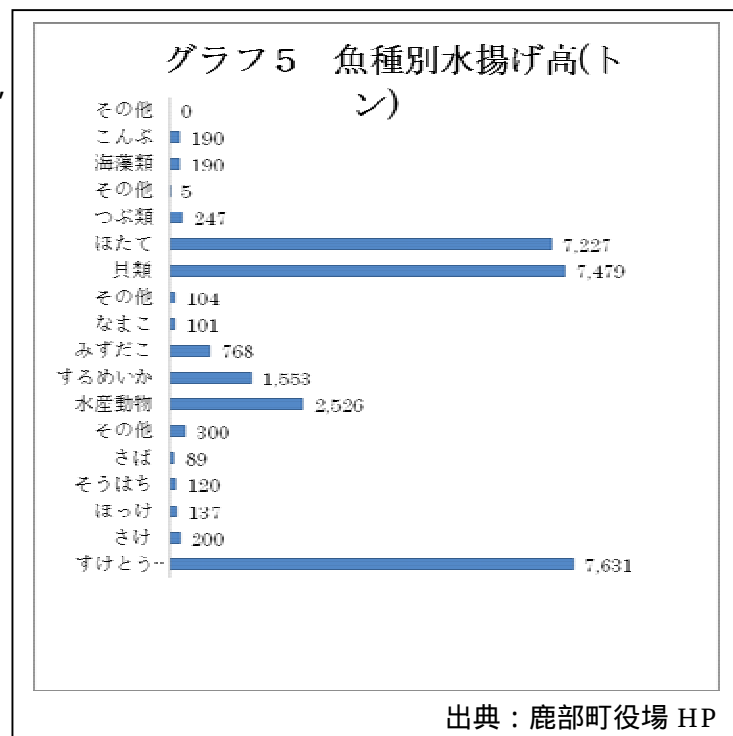




4.2 鹿部町の産業

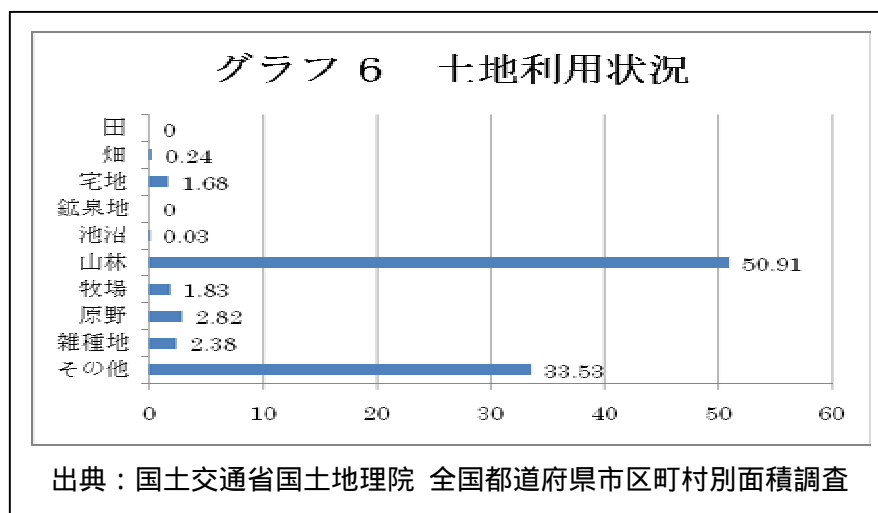
鹿部町は、基幹産業が漁業で町内には大小 3 つの漁港があり、通年でタコ、カレイ、ホッケが水揚げされ、サクラマス、昆布、ナマコなどの漁も盛んで、特に冬場は主産業となっているタラコの原料スケトウダラ漁と、ホタテの水揚げが浜を賑わす。また、中心となる鹿部川には、放流した鮭が遡上する。

駒ヶ岳の麓にあることから温泉も多く、町内には 37 箇所の温泉があり、大正 13 年 4 月、温泉を採掘中に偶然見つかった日本でも大変珍しい間歇泉もある。



4.3 町内の土地利用

土地の利用状況は、山林もしくはその他が大半を占めている。なお、現在は温泉付きリゾートの開発が進んでおり、鹿部町の豊かな自然とともに温泉の魅力もあって定住者も年々増加している。



5. 観光

5.1 観光スポット

町内のいたるところに源泉があるため町内全ての旅館が温泉旅館で、銭湯も温泉になっている。前述した間歇泉もしかべ間歇泉公園として整備され、自然の力だけで約 100 度の熱湯を最大約 15m 以上の高さまで断続的に噴き上げている様子を楽しめる。

他にも町民憩いの場としてひょうたん沼がある。名前通りのひょうたんの形をした沼を中心に整備されたスポットで、沼を一周する散策路や多目的広場、家族連れに人気のバーベキュースペースもある。目の前に噴火湾が広がり、大沼からの眺望とはまた違った表情を見せる勇壮な駒ヶ岳は必見で、四季折々の花々と沈む夕日の美しさも格別である。

図 5 ひょうたん沼



出典：鹿部町役場 HP

図 6 間歇泉



出典：鹿部温泉観光協会 HP

5.1 アイヌの伝説

鹿部のシンボルといえは何ととっても駒ヶ岳だろう。その駒ヶ岳にはこんな伝説があるという。

大昔、アイヌの国造りをした神様オキクルミが、天の神様のところへ、人間のために火をもらいに行った。天の神様は火をつかんでオキクルミに投げしてくれた。それからアイヌの人々は火を使えるようになり、その時火の粉が落ちたところが恵山と駒ヶ岳で、今でも火山が活動している。

参照ホームページ

鹿部町ホームページ：<http://www.town.shikabe.lg.jp/>

鹿部温泉観光協会：<http://shikabe.net/sk/>